

あし

ハイキングクラブ



ちんぐるま

第333号

2017年7月13日発行

### 先月の三校

- ☆ 6月 4日 (日) 浄法寺山 山行報告参照
- ☆ 11日 (日) 三十三間山 山行報告参照
- ☆ 18日 (日) 行市山桃の木峠山行報告参照
- ☆ 25日 (日) 姥ヶ岳

### 7月の予定

- ☆ 2日 (日) 法恩寺山 山行報告参照
- ★ 13日 (木) 例会
- 15日 (土) ~ 北岳 3日間 参加者7日までに  
CL 宮本重信
- 26日 (水) ~ 白山一泊登山

### 8月の予定

- ☆ 3日 (木) 納涼会  
味美家 会費 5000円 19時
- ☆ 6日 (日) 白山  
CL
- ★ 10日 (木) 例会
- 13日 (祝) 三の峰  
CL
- ☆ 20日 (日) 賤が岳 余呉湖  
CL
- 9月 10日 (日) 荒島岳 冠山  
CL CL
- 14日 (木) 例会

### 山行申込み方法

- ・山行申込みの基本は例会時です。  
(都合により例会に出席できないが、山行込みをしたい場合は、例会当日20時半頃、宮本の携帯090-8260-8108へ連絡してください。)
- ・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください。

### 山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

6月4日 浄法寺山 (体験)

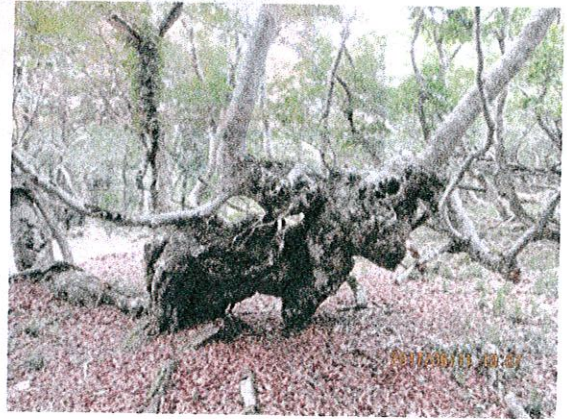


## 三十三間山 (842.3m)

平成29年6月11日(日)曇りのち晴れ

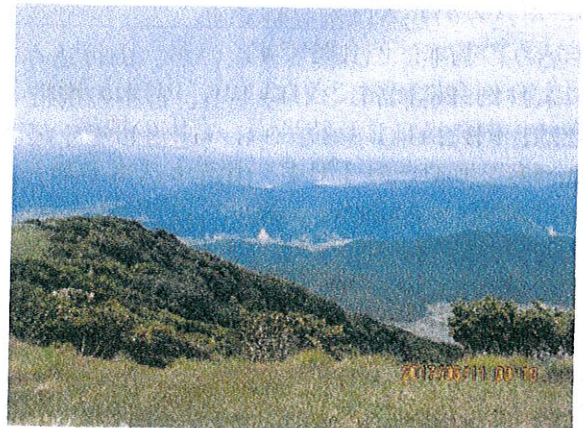
参加者

報告者



色んな形を成している。楓の葉が根元の幹から珍しいオレンジ色に葉が見られました。第二の草原に到着、昼食は雑煮に野菜が入った温く美味しく疲労回復スタミナ料理を頂きました。近江坂、能登越木に結ばれた案内、広いブナ林に進む途端に迷うテープマーキングを確認しながらでないかと踏み跡がはっきり分からな中、小まめにテープが木に新しいの古いの太いの細いのと巻いてありそれを目印に進む。突然目印が右直角に見える、Aさん左側かそのまま進むのが優先だろうとなり、確かではないのでマーキングの方に従う。すると分岐点に出る、ネットで見ると以前鉄塔があつたそうです。近江坂古道この先大御影山に行く道、大日、近江坂と標識あり一行は林道を止め、そのまま近江坂古道分岐に進む古道を下る途中林道と交差ひたすらえぐれた登山道下る。登山道も終わり林道に出る。真新しい堰堤排水路中心は鉄格子の珍しい設計になっていた。花びらが落ちている仰げば沢山の花が咲き(あぶらぎり)と多分Oさんから教えてもらった。林道を歩く途中黒い影足の運びから小熊だと思ふ。ゲートをくぐり登山道で十村の看板が掲げてあつたこの地域か能登野集落か分からないが倉見の駐車場まで歩く。みかた温泉きららのお湯に入り無事に帰路付きました。皆さんご苦労様でした。

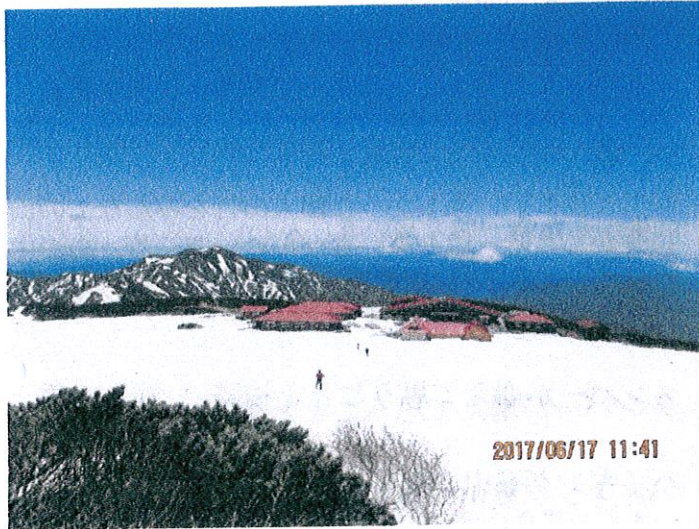
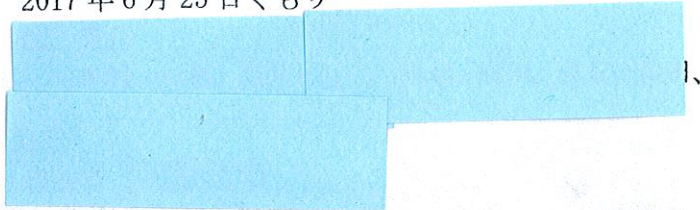
福井から高速に乗る。杉津サービスエリア小休止敦賀、舞鶴若狭高速と乗り継いで三方町、福井梅の生産地を車は走る。国道27号線から左に折れ倉見集落奥に入る。駐車場有り新しいトイレに第一、第二広い駐車場、入り口近くの第2に車2台止め林道を歩く、大きなゲート開けて進むと石積の区画が見られる。以前は耕作地のような平らである。しかし今は杉林になっている。林道と平行して用水路あり、大きい石がゴロゴロある間を澄み切った水が音も無く流れてる。我々が喋る声でだけが静けさを消して行く。登山口頂上3km標柱がある。林道と別れ登り勾配の登山道に踏み入る。手入れの行き届いた杉林下草は何一つない。恐らく鹿が草が生えないくらい食べ尽くされみたいだ。緩やかな登りを辿ると広がる日本海、日向湖、壺湖、水月湖、三方湖、久々子湖が一望でき、心地よい風に吹かれ休憩、次の休憩は夫婦松、残念ながら松は朽ち果ている。頂上まで1.5Kの看板を背負っている。このあたりから杉から雑木林にかわり登りもきつくなる。風神の案内、脇に少し寄り道する頂上七〇〇mの分岐に出る。驚くほどに木々は無く芝生が生えた状態だ。遠くは霞んでいるが琵琶湖が見える。頂上を目指すこの先笹原が登山道を塞いで覆って見難い。このような場合気お付けたほうがいい、経験だがこの先迷い易い場合登山道を不迷路し、刈らずにおく場合がある。頂上に着く三角点真新しい標柱で写真撮影追え先に進む能登越方向みなさん元気で先に進む。最初背丈大きなブナ林、先に進むにつれてブナが低く幹が細くなり木々が寝そべる様になる年数が若いブナに変る。根元は太いから炭焼きで伐採され又、風か大雪のせい全部の木が傾いて、中には自然に出来た造形で恐竜のように見えるなど



## 「山行報告」

大徳山 327m

2017年6月25日 曇り



6時に県建設技術研究センターに集まり、天気模様が悪いので、姥ヶ岳は中止し、急遽今立の大徳山に行くことになった。

7時ごろに大瀧神社に着いた。早朝のために外に出ている人は少なく、「和紙の里」らしく、重々しい家々が立ち並んでいた。以前きた時に比べて家々の外壁の色を黒で揃え、車道も手入れし、落ち着いた町並みを表現し、観光に力を入れているようである。

登山する前に大瀧神社にお参りした。境内に入ると、階段を上り、神門をくぐると、正面に見事な拝殿・本殿が立っている。社殿は国の重要文化財に指定されている。驚かされるのは、随所に施された丸彫り彫刻の多さである。拝殿正面の上部には獅子や龍、鳳凰、草花などが巧緻を尽くして彫られている。すばらしいのは本殿の側面と背面の板面や袖板戸に、中国の故事を題材にして彫られた丸彫り彫刻である。

今まで何度かこの神社にきたが、本殿と拝殿と連結した複合社殿の建築様式、それに丸彫り彫刻がこんなにすばらしいとは思わなかった。この神社をお参りできただけでもこの山行は満足である。

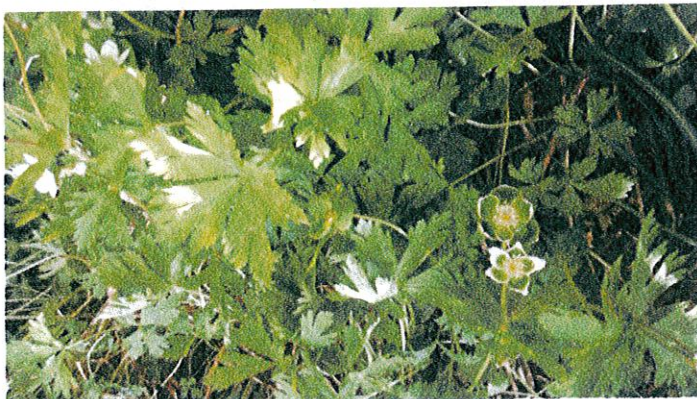
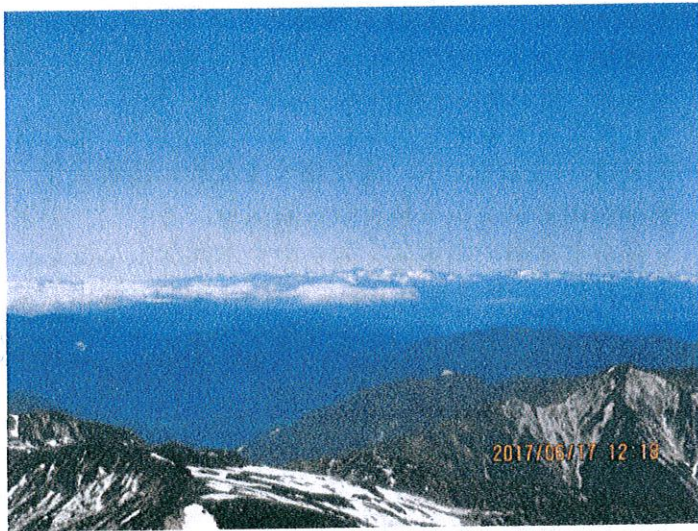
大徳山へは、秋葉神社から登った。途中秋葉神社近くの展望所から「和紙の里」大瀧の集落を見下ろすことができた、数多くの製紙所の屋根が立ち並び歴史の重さを感じた。30分くらいで大徳山山頂に着いた。しばらくして大瀧城本丸の標柱があり、すぐ近くに「天然記念物大瀧の大杉」が見えた、高さ33m、根回り9.8mもある巨木である。

しばらく下ると、奥ノ院に着いた。そこで早い昼食をした。わざわざ冷やしたそうめんを頂き、乾いた喉に活力を与えた。

幅の広い山道を下り、大瀧神社横の駐車場に着いた。時間は10時、まだまだもの足りないということで、三里山目指して岡太神社へ。

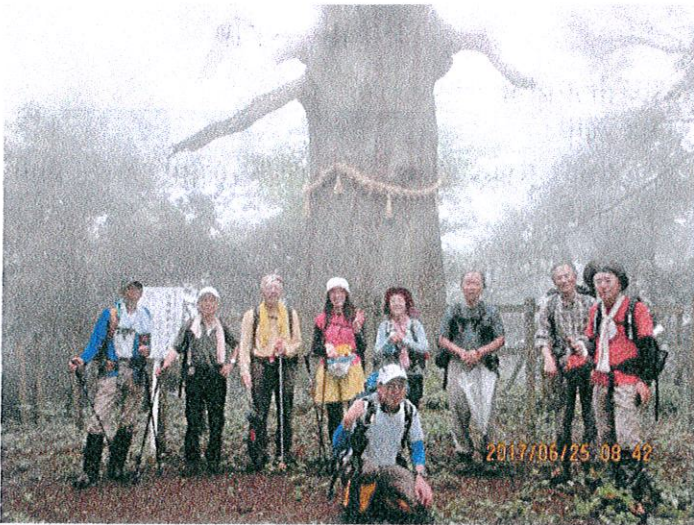
そこから登山、途中、薄墨桜、展望台へ、展望台で、立ち込めていた雨雲が履き流され、今立の町並みがすっきり見え、遠く武生東高校も見えた。さらに、山城である行司岳を通り、急な山道を下り、岡太神社に、ようやく着いた。

幸いなことに雨に濡れずに2山を登ることができた。帰りは、神明苑で濡れた汗を洗い流し、すっきりした。充実した山行であった。



ニリンソウ 白山

## 大徳山



## 会山行と個人山行

### 荒川勝巳

会員であっても会山行に参加する義務はない。個人的に行きたい山があればそれで良いが会山行にマイナスになるなら問題がある。

登山を広く一般勤労者のものとする私達の会は会山行を通じて普及とチームワーク学習、交流を重ねてゆく。たんなる登山好きではないことを頭において欲しい。個人山行で得た知識を是非これからの会山行にいかしてほしい。楽しかった個人山行をみんなでの山行に生かした時一段と高い喜びがわいてくる。会の中で好循環がおきる時「安く楽しく安全に」という会の登山理念は実現する。

## 大滝神社



## メンバーが増えて思うことと相談 宮本重信

### ハイキング登山の楽しみを多くの人に

4月の菅倉岳は18名に、5月の鷲走ヶ岳は17名。大勢の参加になった。更に、5月末のハイキング入門講座やそのちらし、ホームページなどをご覧頂き、更に4名が入会され、総計34名になりそうである。多くなって連続してリーダーをすると、下山の確認などで、間違ったり、帰宅後に心配になったりする。私は、元々、こうしたことも苦手なのである。家で言ったら、連れ合いからは、「それなのに、また増やすために講習会や一般参加の山をやるの？私らの合唱なら、メンバーが少なくなると合唱が出来なくなるから大変なのだけど」と言われた。ごもつともである。でも、私は、登山の楽しみをみんなにとの思いからである。増えると大変な副会長荒川さん、会計の伴藤さん、チングルマ編集送付加中さん等も、同じ思いだと思う。

私の高校時代の恩師らもそうであった。5年ほど前に、高校山岳部のOB会で、当時の顧問の山田三樹雄先生らと芦原で飲んだ際に言われた。先生は、それまでの白山や県内まででなく、北アルプスの素晴らしさを、君らに体験させたくて、やらしたとおっしゃっていた。山は良いぞと、山岳部に入れと古文の時間の都度、宣伝した多田良章先生も、同じ思いだったのだろう。

県庁に入って県庁のワングルに属したが、ワングルとは別にその7年ほど県内内の若い有人10人ほどを毎夏北アルプスに、2泊3日で連れて行った。楽しかった。また、福井土木事務所勤務では、職員組合の青年部長を活かして、15人ほどで夏の白山1泊お行った。これも子供連れの参加者からも喜んで頂き楽しかった。県庁のワングルやその後の今の勤労者山岳連盟でも、一般募集で夏の山行を担った。高山植物の名前を教えながら楽しく登った。

## 行人山と桃の木峠

6月18日 11人

### 荒川勝巳

山遊会 G、初めての山行。薄曇り花山峠を経て大野盆地、左側の山麓に沿うように車を進め大戸谷集落へ。案内坂どおりに進みイノシシよけの柵をこえて登山口へ。

由来板と小屋がある杉林の中をゆっくりと進み休憩小屋なんと自由に使ってと(ジュース、コーヒー缶)ある。しかしここから急登の連続汗が沢山でるが休める所がない小一時間で行人岩。おおきな岩がかぶさるように絶壁に突き出ている鐘を思い切り鳴らす。ここが宗教的な修行の場

このあとわずか3分の急登で尾根上の展望台。大野市が一望、荒島が見える

さて車を經由して桃の木を目指し、金山をこえて、このあと登山口が見当たらない車で峠まで行ってしまった名物の大杉は健在(金山からすぐの堰堤に車を止め林道を少しで登山口)

## 7月2日法恩寺山

荒川さん、伊部さん、森田さん、上田さん、境井さんは6時集合。私と立田さんは6時半にグリーンセンターで合流です。

荒川さんに行き先を鳴谷山から法恩寺山平泉寺への変更を知らされる。車を平泉寺駐車場に止め、皆さん思い思いに傘や合羽で雨対策をして雨の中出発です。

石畳の平泉寺の山道を通って登山口に向かいます。すり始めてすぐ、急坂になって蒸し暑く汗が吹き出しました。杉林の中を進んでいくと、遠くでシカの鳴く声が聞こえます。雨は降ったり止んだりで大した事もなく、三頭山山頂に到着しました。雨も止んでいます。風が少しあって気持ち良く感じました。向かいの山の斜面にスキージャムのゲレンデとホテルが見えます。少し休んでまた出発です。

また雨が降り出し蒸し暑く汗だくでしたが、今度は大きなイボガエル(全長15cmくらい)を発見しました(私はカエルが大嫌いで、少し怖いとさえ思っています)。そっと避けて通ります。

小屋の手前の展望台に到着し、休憩です。ここで少しお腹に食べ物を入れて、元気回復を待ちます。そしてこの雨の中『法恩寺山山頂を目指すか、ここで引き返すか』の相談です。雨も大した事なさそうだし、元氣も回復したし、山頂に向けて出発ということになりました。行くぞ!

法恩寺山山頂。しかし歩き出すと雨も降りだし道は石の階段が崩れたような急坂で、滑りそうだし、傘は差しているし、なかなか思うように歩けません。頂上まで1kmの標識を過ぎ、おそらく後500mくらいの所で先頭の伊部さんが振り返って「どうします、まだ行きますか?」との声。皆立ち止まって、行くとも行かないとも声が出ないので、荒川さんから「今日はここで引き返しましょう」と引き返すことに。歩き始めると雨がだんだん強くなって本降りに、道は急で石と土と落ち葉で滑るし、場所によっては道に水が流れて川みたいで大変です。なんとか小屋までたどり着くと、そこに4人の若者(30才前後、男2人・女2人)がいました。軽装でトレイルランをしているそうです。今から法恩寺山に向かうなんて、元氣ですねえ~!

私たちは汗だくなので展望台で昼食です。なんと境井さんがワントンスープを皆に作ってくれました。

「ごちそうさま、おいしかったです」ありがとう!休んでいると雨も止んで日が差すことも。そろそろ出

発。下山します。

帰りは弁ヶ滝に寄り道です。途中また雨が降ってきて、雨や汗でぐしょぐしょです。でも弁ヶ滝は期待以上に凄い!!落差も水量もビックリです!!疲れを忘れるほどでした。それから舗装された林道を歩いて登山道に戻ります。この頃も雨がかなり降っていました。

登山道に戻って歩き始めると、またあの若者(なぜか3人)がすごい勢いで後ろから前に走り去って行きました。「雨の中滑って転ばないようにね~!」でも、1人どうしたのだろうか? 私たちも雨に濡れて、汗に濡れて、ぐしょぐしょで平泉寺に戻ってきました。温泉に行こう!今日は勝山温泉センター水芭蕉です。湯船も広くて良い温泉です。汗をかいたら温泉ですね!ぐしょぐしょになった分爽快感も倍増で、やっばり『山』ですよな~!!これからもよろしくお願ひします。下村=



### 編集後記

ほとんどの会員がたんなる山好き(荒川氏には悪いけれど)だと思ひしそれ以上求める事は難しく思ひます。もし荒川氏の思ひ人がいるならば現在の情報社会個人山行の方が楽ですね。事故無ひ事を願ひしかないです、

## 気になる事故

私の高校1年の山岳部の夏合宿は、夜行列車で新穂高温泉から双六岳、槍ヶ岳往復泊(前日の疲労と雨で中止)、双六から水晶岳、野口五郎岳、高瀬ダムまでの4泊5日のテント泊で、キスリングは32kgだった。しかも夜行列車で、真夏の双六岳への登りに、ばてるから水を飲むなだったから、2年の精鋭は高体連で岩手山で、1年男子7名の4名はバタン。立ったまま歩こうとしない。頼むから足を一步進めてくれとバテた彼らに哀願しながら、私の前が進むのを待ち、日射しの中をゆっくりと登った。私は調子は悪くなかったが、それでも辛くて、初日は帰ったら直ぐに退部しようと考えながら登った。水は飲まない、32kgで毎日8時間の歩きで、この山登りはとんでもないことになったのだ。夏合宿前にやっていた足羽山まで歩いて行って、坂道や階段をインターバルで走るなどの体力作りも役に立たなかった。メンバーの一人は、みんなに迷惑を掛けたことを気にして退部したことを一昨年学年会の50年ぶりに会って彼が私にくれた書いた高校OB会の会報で知った。そこには、近年になって、漸くハイキングに復帰できたとも記されていた。今年の高校の雪崩を遭難も同じだと思う。科学的に安全に配慮しないと山は良いぞで連れて行くことが問題を起す。水を飲んだらバテるなんて、酷い話だった。

安全で楽しい山やハイキングを、それを安全で科学的に、それには会を組織してというのが日本勤労者山岳連盟で、そうあって欲しい。メンバーが増えると、果たして、この山と一緒にいっても大丈夫か、不安になる。誘って入会した人が怪我や遭難では悲しい。その上、メンバーは私も含め、高齢化で、身体能力は低下している。そのことや現実の事故例から、労山中央の呼びかけもあってヘルメットも言い出した。他にも、いろいろ実地講習会もやらないと行けないように思う。

メンバーが増えて、ヤママップで登る山の最新情報を入手する人やGPS登りながら路の確認をするメンバーが現れ、安全に寄与するようになった。これらの情報をこれまで以上に活かすと安全に寄与する。

なにか良い提案があれば提案下さい。

## メンバー増を活かして、多様な要求の実現を

偏狭に、自分達さえ良ければでなく、メンバーを増やし山やハイキングを楽しみたいとのみんなの要求が実現される、そのような会になりつつあることは喜びである。だが、一緒にいくメンバーが増えるとトラブルが多くなり、やはり一緒に登るには9人まででと思う。荒川さんは、そうしたことから、山遊会を提案し進めてきた。

私は、それだけでなく、増えたことを活かして、積極的に、みんなが連絡を取って、登りたい山に行つてはどうかと思う。従来は、山の会で決まった山行に、別に個人的に行くことは憚れた。いわんをや会のメンバーを誘って他の山に行くなんて、会の山行き参加者を減らして良くないとされていた。過日も、日曜に定例会山行があるのに、前日に白山をメンバーを誘っていくのでは、翌日の山行参加数が減って良くないとの電話を頂いた。でも、そうだろうか。別グループで、別に行つても、今の増えた会なら、支障がないように思う。むしろ、参加者が減ってくれた方がありがたい。山遊会を立ち上げるのと同じではないか。レベルや要求にあったそれぞれの要求が実現できて、無理もなくてよいのではないか。憚らずに、多めにやればよいと思うかどうか。そうすればリーダーも増えてよい。一人での山を減らし、みんなが各自の要求にあった山行きになればよい。木曜の例会に、事前に、計画された山の山行きにぶち当たってもよいから、提案した方がよいのではないか。それで当初案の参加者が集まらないなら、それを止めて、その案に参加すればよいのではないか。当初案のリーダーの立場、メンツがないという意見もあるが、私とそのリーダーなら、全く構わない。気にしない。やりたくてリーダーをやっているのではないし、降りられて助かる。こうなって同じ日に幾つも行くとになれば、山遊会と本体が同じ日に行く際にも、どちらでもよいことに繋がる。

今、メンバーが増えて、連絡を取って、会の山以外にも、数名で、あるいは大勢で行くことが増えた。それが会の山行きとしても発展してくれば良いと思う。

これがよいかどうか、もっと良い方法がないか、メンバーが増えることが負担になるでなく、私やみんなの利点になる、そんな方法がないだろうか。意見を出し合って、大勢に増えた条件をも活かし、安全で要求にあったハイキングをと思えます。

山の参加人数が変更になるのは病気や家庭仕事もこともあってやむを得ないですが、計画作成や食事の材料手配もあるので、原則金曜日までに連絡下さい。